

氏 名	寺 嶋 秀 明 てら じま ひで あき
学 位 の 種 類	理 学 博 士
学 位 記 番 号	理 博 第 596 号
学位授与の日付	昭 和 54 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研 究 科 ・ 専 攻	理 学 研 究 科 動 物 学 専 攻
学 位 論 文 題 目	Hunting life of the Bambote-An anthropological study of the hunter-gatherers in the wooded savanna (バンボテ族の狩猟生活-乾燥疎開林帯の狩猟採集民の人類学的研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 池 田 次 郎 教 授 川 那 部 浩 哉 教 授 河 合 雅 雄

論 文 内 容 の 要 旨

申請論文は、アフリカのタンガニカ湖西岸に住む狩猟採集民バンボテ族の狩猟生活を生態人類学的視点から記載し分析したものである。この地域は乾燥疎開林に属し、アフリカの代表的な狩猟採集民ピグミーの住む熱帯降雨林帯と、ブッシュマンの住む乾燥サバンナ帯との中間的な植生を示すが、今日この植生帯に住む狩猟採集民はほとんど姿を消してしまっており、バンボテ族についてのこの記載は、前例をみないものである。

バンボテ族は、ピグモイドに属する少数民族と考えられるが、人種的な帰属は詳かでなく、ごく少数が焼畑農耕民と共生的な関係を保ちながら、狩猟を生業とした生活をおくっている。独自の言語はすでに失っており、共生的関係を保っている農耕民の言語を借用している点はピグミーと同様である。彼らは、父方居住の傾向の強い20~40人で小バンドを作っているが、申請者はその2バンドを対象として参与調査をおこなった。彼らは個人猟と集団猟をおこない、弓矢猟、ネット・ハンティング、罟猟などの猟法をもつが、狩猟の頻度と捕獲量などから見てもっとも重要なものは、ネット・ハンティングと“lukokolo”と呼ぶ協同弓矢猟である。申請者は、狩猟技術、狩猟具、対象動物の生態、植生や地形の条件、狩猟行動と習慣、狩猟の成果などを詳細に検討して、中型のブッシュダイカー (*Sylvicapra grimmia*) を主対象とする彼らの狩猟が、その自然環境によく適合したものであることを明らかにした。

申請者はこの分析の結果に基づいて、アフリカの異なった環境に住む狩猟採集民、ブッシュマン、ピグミーなどとの比較を試み、アフリカン・ハンター・ギャザラーについての体系的な理解を得ようとしている。バンボテ族は、森林地帯に特徴的なネット・ハンティングや勢子を使った協同弓矢猟をおこなうが、獲物、ネットの長さ、その設置法、勢子の行動、猟場の選定などに、ピグミーのものとの違いが見られる。この相違は、乾燥疎開林と熱帯降雨林という環境条件の違いにもとづくもので、狩猟の効率には大きな差は見られない。また、オープンランドの狩猟に特徴的な追跡と忍び寄りによる個人的弓矢猟も同時に見られるが、乾燥疎開林では長距離にわたる追跡が困難なため、ブッシュマンに見られるような徹底したもの

ではなくなっている。申請者は、以上の点から、バンボテ族の狩猟が、森林とサバンナの狩猟の中間的形態を示し、乾燥疎開林という自然環境によく適応したものであることを結論としている。

論文審査の結果の要旨

アフリカの熱帯降雨林帯の外縁を占める広大な乾燥疎開林帯に今日残存している狩猟採集民はきわめて少なく、これまでにその生態人類学的な報告がなされた例は皆無である。したがって、アフリカにおける狩猟採集民の生活を体系的に理解する上からも、また狩猟採集を主生業とした乾燥疎開林への生態学的適応について考察する上からも、本申請論文は重要な意義をもっている。

申請者は、バンボテ族のとくに狩猟生活について、その自然環境、狩猟道具と狩猟方法、猟人の行動と狩猟における慣習、環境利用のパターン、狩猟の効率、獲物の分配等の諸点について詳細にわたって記載し分析を加えているが、貴重な資料であると言えることができる。さらにこれらの資料を、アフリカにおける異なった環境条件下に住む狩猟採集民、熱帯降雨林帯のピグミー、サバンナ帯のブッシュマン等と比較することによって、乾燥疎開林における狩猟の特性を論じ、かつその生態人類学的な位置づけを試みている。

申請者の、バンボテ族の狩猟が、熱帯降雨林に特徴的な狩猟の要素とサバンナに特徴的な狩猟の要素とともに併せもち、しかもそれを彼らの環境条件に適合させたかたちで変容させているという指摘にはとくに興味深いものがある。また申請者は、乾燥サバンナ帯におけるバンボテ族の狩猟が、熱帯降雨林と乾燥サバンナ帯の中間に位置するという事実をよく反映していると結論しているが、アフリカの狩猟採集民についての比較研究の水準を高めたことはとくに評価されてよい。必らずしも時間的に恵まれたとは言えない現地調査の資料にもとづいて、簡明な記述によってバンボテ族の狩猟生活の実態を表現しようとした創意からも、申請者の野外調査者としての優れた能力をうかがうことができる。

よって本論文は、理学博士の学位論文として価値あるものと認める。